

## 産業廃棄物処理計画書

令和5年6月30日

相模原市長 殿

## 提出者

住 所 神奈川県相模原市緑区町屋1丁目1番40号

氏 名 福島製鋼株式会社 相模工場  
工場長 斎藤 弘典

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

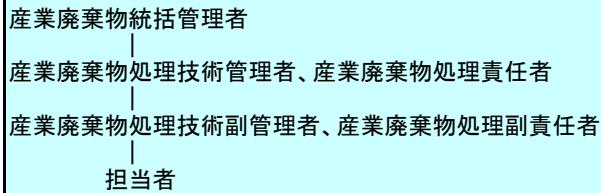
電話番号 042-782-2721

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	福島製鋼株式会社 相模工場		自主管理番号
事業場の所在地	TEL(連絡先): 042-782-2721 神奈川県相模原市緑区町屋1丁目1番40号		
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年間)		
当該事業場に関する事項			
① 事業の種類	E31－輸送用機械器具製造業 (具体的には)		トラック、建設機械用鋳物部品の製造
※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	5,055 百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)			
③ 従業員数	全社 895人 当該事業場 168人		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	金属溶解工程⇒造砂工程⇒造型工程⇒バラシ工程(砂回収装置で戻る場合有)⇒廃砂⇒廃砂置き場 金属溶解工程⇒スラグ⇒スラグ置き場 鉱さい⇒廃棄物 ダスト⇒ダストフレコンパック その後、処理業者が引き取る		
※ 産業廃棄物の種類ごとに記入			

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

## (管理体制図)



## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度(令和4年度)実績】			
産業廃棄物の種類数	2	種類	* 種類ごとの前年度排出量 は、別紙のとおり。
① 排出量	26,936.8	t	
(これまでに実施した取組)			
① 現状			
1.使用材料の減量化(新砂・粘結材の使用低減など)。 2.新砂・粘結材添加量の低減。 3.工程内回収零れ砂の自社再生による委廃棄量減少。 4.不良中子の再生砂化100%を実現する(中子をクラッシャーに入れ再生砂として使用)。			
【(令和5年度)目標】			
産業廃棄物の種類数	2	種類	* 種類ごとの本年度排出目 標量は、別紙のとおり。
① 排出量	30,863.0	t	
(今後実施する予定の取組)			
② 計画			
1.使用材料の減量化(新砂・粘結材の使用低減など)。 2.新砂・粘結材添加量の低減。 3.工程内回収零れ砂の自社再生による委廃棄量減少。 4.不良中子の再生砂化100%を実現する(中子をクラッシャーに入れ再生砂として使用)。			

## 産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	1.廃棄物の細分化による再利用率の增量。 2.目的別リサイクル分別化(砂再生・セメント材料・路盤材原料・再生亜鉛材)の更なる推進。 3.ダンボール・古紙(リサイクル)・OA用紙シュレッター化による資源化推進。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	1.廃棄物の細分化による再利用率の增量。 2.目的別リサイクル分別化(砂再生・セメント材料・路盤材原料・再生亜鉛材)の更なる推進。 3.ダンボール・古紙(リサイクル)・OA用紙シュレッター化による資源化推進。

## (第3面)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度(令和 4 年度)実績】			
(②+⑧) 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	22,721.0	t	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
(これまでに実施した取組)			
① 現状 1.再利用の増量。 1)社内再生利用:自硬性砂・生型砂・シェル砂・鉄くず・切粉・空缶他。 2.具体的取組。 1)社内:再生工場の稼働率アップによる再利用増量。 2)鉄くず・切粉・空缶などの再溶解量の増量。			
【(令和 5 年度)目標】 (②+⑧) 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 26,794.0 t * 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。			
(今後実施する予定の取組)			
② 計画 1.再利用の増量。 1)社内再生利用:自硬性砂・生型砂・シェル砂・鉄くず・切粉・空缶他。 2.具体的取組。 1)社内:再生工場の稼働率アップによる再利用増量。 2)鉄くず・切粉・空缶などの再溶解量の増量。			

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度(令和 4 年度)実績】			
(⑤) 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
(⑦) 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
(これまでに実施した取組)			
① 現状 【(令和 5 年度)目標】 (⑤) 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 0.0 t * 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。			
(⑦) 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量 0.0 t * 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。			
(今後実施する予定の取組)			
② 計画			

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度(令和4年度)実績】	
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t
(これまでに実施した取組)	
① 現状	
【(令和5年度)目標】	
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.0 t
(今後実施する予定の取組)	
② 計画	

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和4年度)実績】	
⑩ 全処理委託量	4,215.8 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	4,215.8 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t
(これまでに実施した取組)	
① 現状	

\* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。

\* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。

\* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。

## (第5面)

【(令和5年度)目標】			
② 計画	⑩ 全処理委託量	4,069.0	t
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0	t
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	4,023.0	t
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0	t
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0	t
(今後実施する予定の取組)			
・製品仕上げ工程で排出される鉱さいについては、自社砂再生利用により再生利用業者への委託量が減少。			
※ 事務処理欄			

\* 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。

## 備考

- 1 この様式は、前年度(令和4年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。  
また、前年度(令和4年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあっては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和5年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

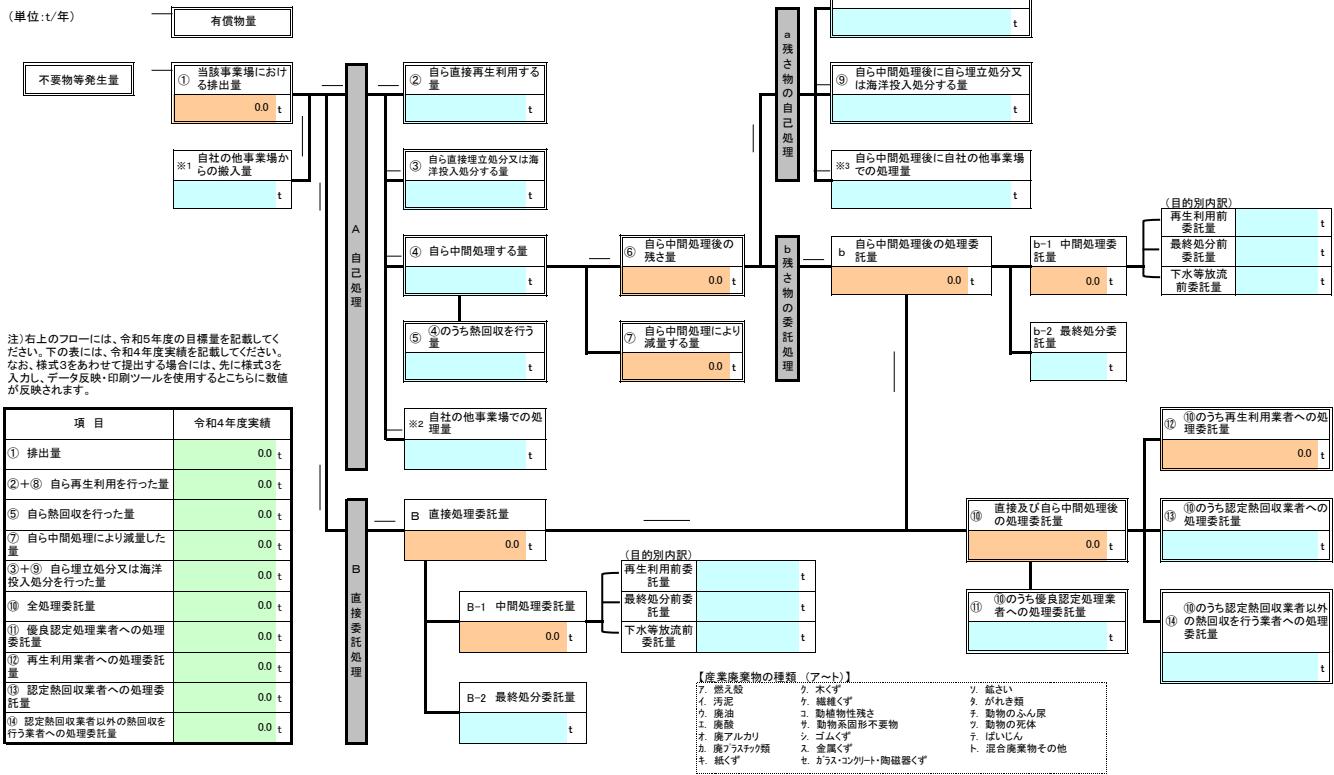
## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	ア 燃え部
--------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



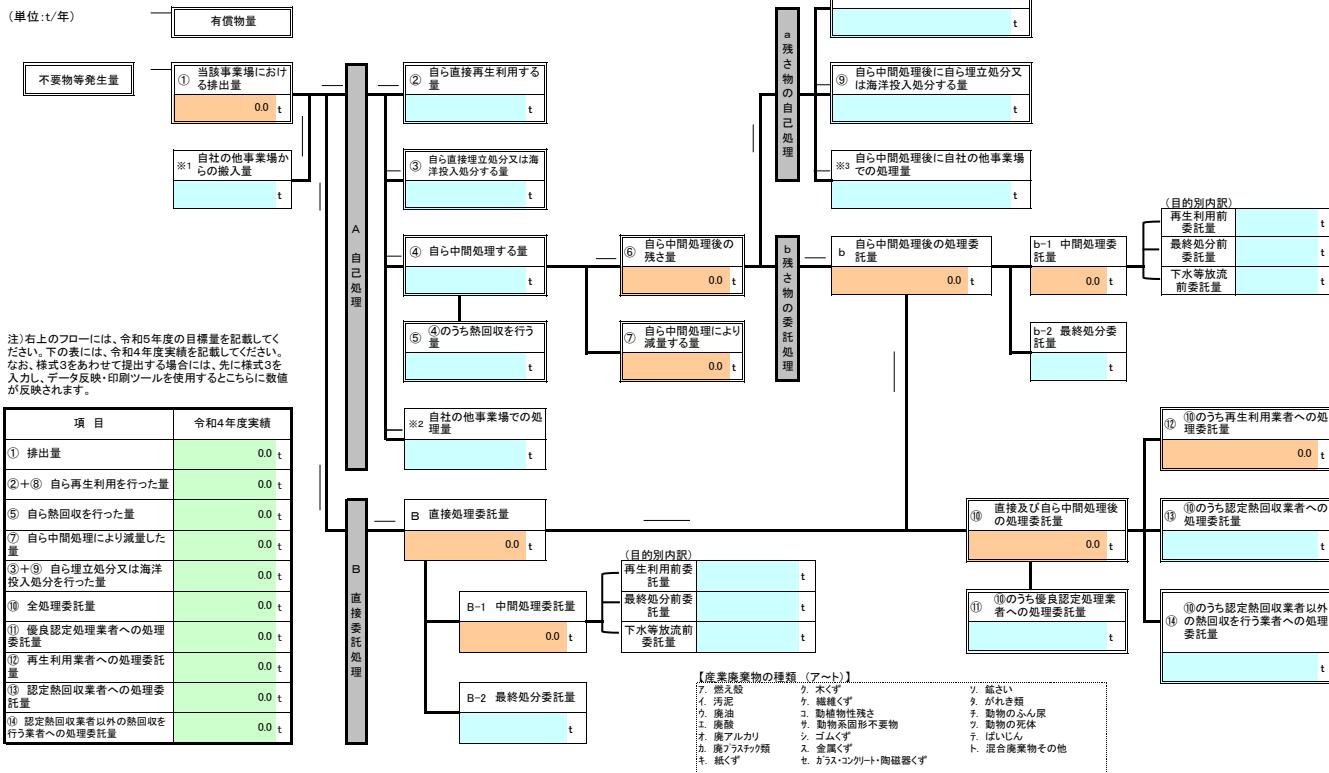
## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	イ. 汚泥
------------------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	ウ. 廃油
--------	-------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

有価物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量

t

自ら直接再生利用する量

t

自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量

t

自ら中間処理する量

t

④ うち熱回収を行う量

t

自ら中間処理により減量する量

t

自ら他の事業場での処理量

t

B 直接処理委託量

0.0 t

B-1 中間処理委託量

0.0 t

B-2 最終処分委託量

t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をおわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量

t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量

t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量

t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量

0.0 t

b-1 中間処理委託量

0.0 t

b-2 最終処分委託量

t

(目的別内訳)  
再生利用前委託量  
最終処分前委託量  
下水等放流前委託量

t

t

t

⑩のうち再生利用業者への処理委託量

0.0 t

t

⑪のうち認定熱回収業者への処理委託量

t

t

⑫のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

t

t

【産業廃棄物の種類】(ア~ト)

ア. 漏え液	ク. 廃油	ソ. 鉛さい
イ. 汚泥	ケ. 繊維くず	タ. ガれき類
ウ. 廃油	コ. 動植物性残さ	チ. 動物のふん尿
エ. 廃臓	サ. 動物系固形不雑物	ワ. 動物の死体
オ. 廃アルカリ	シ. コムくず	ヲ. ばいじん
カ. 廃フッ素チオ類	ス. 金属くず	ト. 混合廃棄物その他
セ. 紙くず	セ. カラバ・コンクリート・陶磁器くず	

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	工 廃酸
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位:t/年)

有価物量
------

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量

t

自ら直接再生利用する量

t

自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量

t

自ら中間処理する量

t

④ のうち熱回収を行う量

t

自ら中間処理により減量する量

t

自らの他事業場での処理量

t

自ら直接委託する量

0.0 t

自ら中間処理後における残さ量

0.0 t

自ら再生利用を行った量

t

自ら中間処理により減量した量

t

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量

t

全処理委託量

t

優良認定処理業者への処理委託量

t

再生利用業者への処理委託量

t

認定熱回収業者への処理委託量

t

認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量

t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量

t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量

t

自ら中間処理後の処理委託量

0.0 t

b-1 中間処理委託量

0.0 t

(目的別内訳) 再生利用前委託量

t

最終処分前委託量

t

下水等放流前委託量

t

b-2 最終処分委託量

t

⑩ のうち再生利用業者への処理委託量

0.0 t

⑪ のうち認定熱回収業者への処理委託量

t

⑫ のうち優良認定処理業者への処理委託量

t

⑬ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

t

⑭ のうち認定熱回収業者への処理委託量

t

⑮ のうち混合廃棄物その他の処理委託量

t

注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら直接処理する量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら直接処理する量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	オ. 廃アルカリ
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位:t/年)

有価物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量  
0.0 t※1 自社の他事業場からの搬入量  
t② 自ら直接再生利用する量  
t③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量  
t

A

自己処理

④ 自ら中間処理する量  
t⑤ (4)のうち熱回収を行う量  
t※2 自社の他事業場での処理量  
t⑥ 自ら中間処理後の残さ量  
0.0 t⑦ 自ら中間処理により減量する量  
0.0 t

B

直接委託処理

B 直接処理委託量  
0.0 tB-1 中間処理委託量  
0.0 tB-2 最終処分委託量  
t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量  
t⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量  
t※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量  
t(目的別内訳)  
再生利用前委託量  
最終処分前委託量  
下水等放流前委託量  
t(目的別内訳)  
再生利用前委託量  
最終処分前委託量  
下水等放流前委託量  
tb-1 中間処理委託量  
0.0 tb-2 最終処分委託量  
t⑩ のうち再生利用業者への処理委託量  
0.0 t⑪ のうち認定熱回収業者への処理委託量  
t⑫ のうち優良認定処理業者への処理委託量  
t⑬ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量  
t⑭ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量  
t

【産業廃棄物の種類】(ア~ト)	
ア. 損耗品	ソ. 鉛さい
イ. 汚泥	タ. 廃れき類
ウ. 廃油	チ. 動物のふん尿
エ. 廃酸	ク. 動植物性残さ
オ. 廃アルカリ	サ. 動物系固形不雑物
カ. 廃ガラスチック類	シ. コムくず
チ. 紙くず	ス. 金属くず
	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

## 別紙処理フロー

## 令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	カ. 塑料類
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位:t/年)

有価物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

46.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量

t

自ら直接再生利用する量

t

自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量

t

自ら中間処理する量

t

④ うち熱回収を行う量

t

自ら中間処理により減量する量

t

自らの他事業場での処理量

t

B 直接処理委託量

46.0 t

B-1 中間処理委託量

46.0 t

B-2 最終処分委託量

t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量

t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量

t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量

t

b 残さ物の委託処理

自ら中間処理後の処理委託量

0.0 t

b-1 中間処理委託量

0.0 t

b-2 最終処分委託量

t

(目的別内訳)  
再生利用前委託量  
最終処分前委託量  
下水等放流前委託量⑩ のうち再生利用業者への処理委託量  
0.0 t⑪ のうち認定熱回収業者への処理委託量  
t⑫ のうち優良認定処理業者への処理委託量  
t⑬ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量  
t【産業廃棄物の種類】(ア~ト)  
ア. 電気機器  
イ. 汚泥  
ウ. 废油  
エ. 废酸  
オ. 废アルカリ  
カ. 废プラスチック類  
セ. 紙類  
ソ. 繊維  
タ. 塗料  
チ. 動植物のふん尿  
ワ. 動物の死体  
ヲ. ばいじん  
ト. 混合廃棄物その他

(注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごとに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	44.8 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	44.8 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	44.8 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

## 産業廃棄物処理計画書

2-2 法定 ○ 自主

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

産業廃棄物の種類	キ、紙くず
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位:t/年)

有価物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

0.0 t

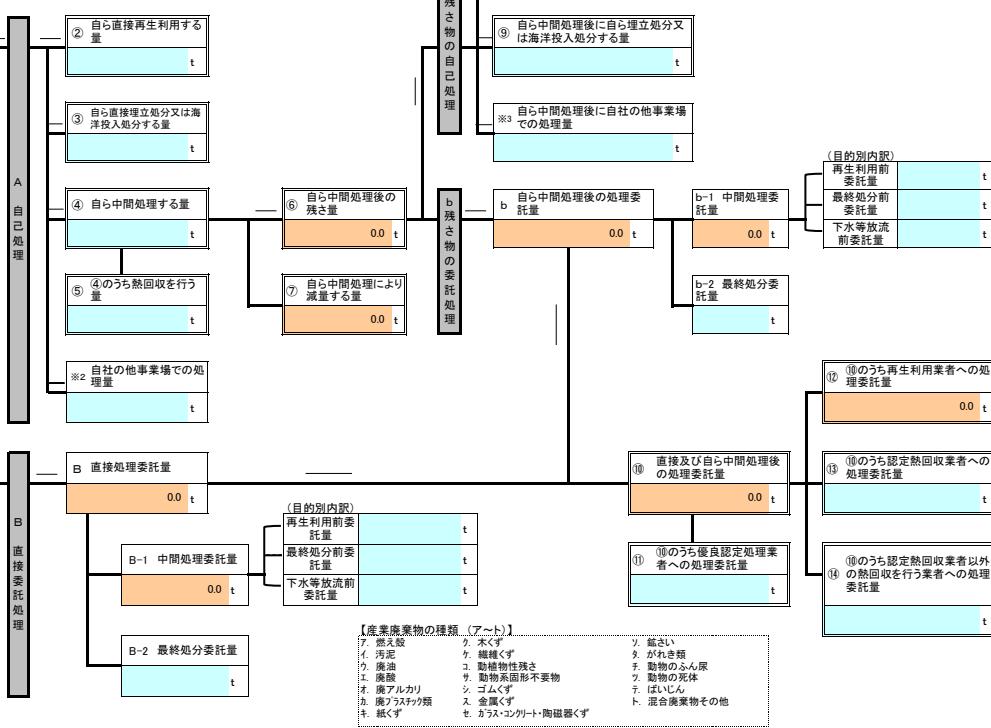
※1 自社の他事業場からの搬入量

t

「紙くず」には実種指定があり、該当実種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。  
【該当実種】パルプ、紙又は紙加工品の製造業、新聞業(新聞収取紙を使用して印刷発行を行うもの)、出版業(印刷出版を行うもの)、製本業、印刷物加工業、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)

注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごとに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら中間処理する量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t



事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

【産業廃棄物の種類 (ア-ト)】		
ア. 損耗品	ク. 廃繊維	ソ. 錆さい
イ. 汚泥	ケ. 廃植物性残さ	タ. ガれき類
ウ. 废油	コ. 動植物性廃物	チ. 動物のふん尿
エ. 废酸	サ. 動物系固形不雑物	ワ. 動物の死体
オ. 废アルカリ	シ. コムくず	ヲ. ばいじん
カ. 废フロスチック類	ス. 金属くず	ト. 混合廃棄物その他
チ. 紙くず	セ. カラバ・コンクリート・陶磁器くず	

## 産業廃棄物処理計画書

2-2 法定 ○ 自主

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

「木くず」には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】木材又は木製品の製造業(家具製造業を含む)、パルプ製造業、輸入木材の卸売業及び輸入業者(原木、粗材、半製品、部材等)、建設業(工作物の新設、改築、除去に伴って生じたもの)。
【全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使用したごく一時的に記載した廃棄物の種類)

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

有価物量
------

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量

t

自ら直接再生利用する量

t

自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量

t

自ら中間処理する量

t

④ うち熱回収を行う量

t

自ら中間処理により減量する量

t

自らの他事業場での処理量

t

B 直接処理委託量

0.0 t

B-1 中間処理委託量

0.0 t

B-2 最終処分委託量

t

自ら中間処理後に再生利用する量

t

自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量

t

自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量

t

直接及び自ら中間処理後の処理委託量

0.0 t

⑩ のうち再生利用業者への処理委託量

0.0 t

⑪ のうち認定熱回収業者への処理委託量

0.0 t

⑫ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

0.0 t

⑬ のうち優良認定処理業者への処理委託量

0.0 t

⑭ のうち優良認定熱回収業者への処理委託量

0.0 t

⑮ のうち優良認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

0.0 t

⑯ のうち混合廃棄物その他の処理委託量

0.0 t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量

t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量

t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量

t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量

0.0 t

b-1 中間処理委託量

0.0 t

(目的別内訳)

再生利用前委託量

最終処分前委託量

下水等放流前委託量

t

b-2 最終処分委託量

t

⑩ のうち再生利用業者への処理委託量

0.0 t

⑪ のうち認定熱回収業者への処理委託量

t

⑫ のうち優良認定処理業者への処理委託量

t

⑬ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

t

⑭ のうち混合廃棄物その他の処理委託量

t

【産業廃棄物の種類 (ア~ト)】

ア. 酸性及

イ. 汚泥

ウ. 废油

エ. 废酸

オ. 废アルカリ

カ. 废フッ素物質類

キ. 紙くず

ク. 繊維くず

コ. 動植物性残さ

シ. 動物系固形不物

シ. コムくず

ス. 金属くず

セ. カラバ・コンクリート・陶磁器くず

ソ. 鉛さい

タ. ガれき類

チ. 動物のふん尿

ワ. 動物の死体

ヲ. ばいじん

ト. 混合廃棄物その他

## 産業廃棄物処理計画書

2-2 法定 ○ 自主

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ケ、繊維くず
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位:t/年)

有償物量	
------	--

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量	0.0 t
----------------	-------

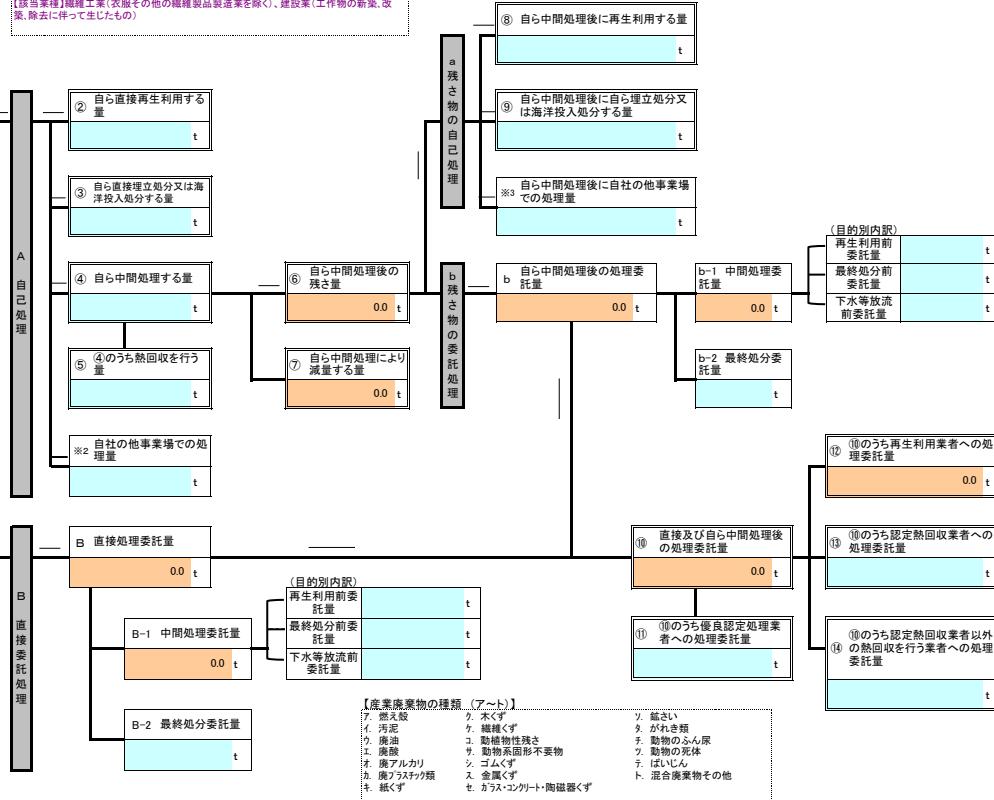
*1 自社の他事業場からの搬入量	t
------------------	---

(注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら直接処理する量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

「繊維くず」には処理指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。  
【該当業種】織機工業(衣服その他の織維製品製造業を除く)、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場



## 産業廃棄物処理計画書

2-2 法定 ○ 自主

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	コ. 動植物性残さ
--------	-----------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量

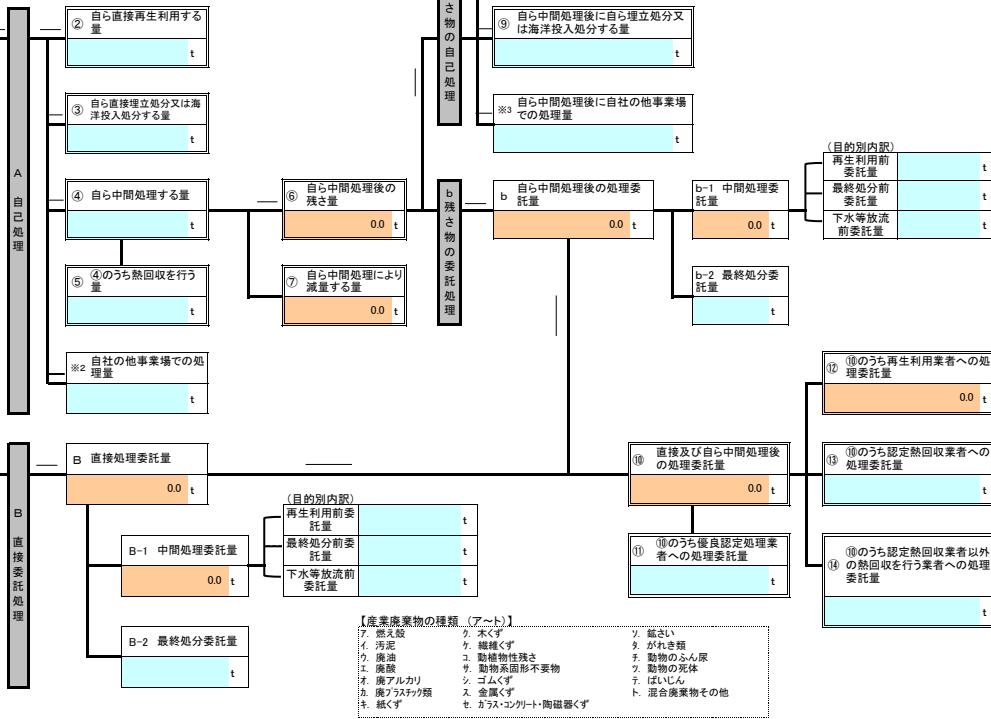
t

「動植物性残さ」には未種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。  
【該当業種】食料品製造業、医薬品製造業、香料製造業において原料として使用した動物又は植物の固形状の不要物

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧. 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤. 自ら回収を行った量	0.0 t
⑦. 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨. 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩. 全処理委託量	0.0 t
⑪. 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫. 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬. 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭. 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t



【産業廃棄物の種類 (ア~ト)】		
ア. 酸性物質	ク. 廃油くず	ソ. 鉛さい
イ. 汚泥	ケ. 廃機器くず	タ. ガれき類
ウ. 廃油	コ. 動植物性残さ	チ. 動物のふん尿
エ. 廃酸	サ. 動物系固形不不要物	リ. 動物の死体
オ. 廃アルカリ	シ. コムくず	ヲ. ばいじん
カ. 廃フッ素類	ス. 金属くず	ト. 混合廃棄物その他
セ. 紙くず	セ. ポリ・コンクリート・陶磁器くず	

## 産業廃棄物処理計画書

2-2 法定 ○ 自主

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	サ. 動物系固形不要物
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位:t/年)

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量  
0.0 t※1 自社の他事業場からの搬入量  
t

「動物系固形不要物」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。  
【該当業種】と畜場においてとさつし、又は解体した鶏畜及び食鳥処理場において食鳥処理をした食鳥に係る固形の不要物

※2 右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をおわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をおわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧. 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤. 自ら中間処理する量	0.0 t
⑦. 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨. 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩. 全処理委託量	0.0 t
⑪. 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫. 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬. 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭. 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

② 自ら直接再生利用する量  
t③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量  
t④ 自ら中間処理する量  
t⑤ (4)のうち熱回収を行う量  
t※2 自社の他事業場での処理量  
tB 直接処理委託量  
0.0 t⑥ 自ら中間処理後の残さ量  
0.0 t⑦ 自ら中間処理により減量する量  
0.0 tB-1 中間処理委託量  
0.0 tB-2 最終処分委託量  
t⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量  
t⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量  
t※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量  
t⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量  
0.0 t⑪ (10)のうち優良認定処理業者への処理委託量  
t⑫ (10)のうち再生利用業者への処理委託量  
0.0 t⑬ (10)のうち認定熱回収業者への処理委託量  
t⑭ (10)のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量  
t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量  
t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量  
t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量  
t

b 残さ物の委託処理

自ら中間処理後の処理委託量  
0.0 t

b-1 中間処理委託量  
0.0 t

(目的別内訳)  
再生利用前委託量  
最終処分前委託量  
下水等放流前委託量  
t

b-2 最終処分委託量  
t

⑩のうち再生利用業者への処理委託量  
0.0 t

⑪ (10)のうち認定熱回収業者への処理委託量  
t

⑫ (10)のうち優良認定処理業者への処理委託量  
t

⑬ (10)のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量  
t

【産業廃棄物の種類】(ア~ト)

ア. 酸性物 ク. 塩素化合物  
イ. 汚泥 ケ. 繊維くず  
ウ. 废油 チ. 動植物性残さ  
エ. 废酸 ヲ. 動植物のふん尿  
オ. 废アルカリ シ. コムくず  
カ. 废プラスチック類 シ. 金属くず  
セ. 紙くず ソ. 混合くず  
タ. がれき類  
チ. 動物の死体  
ヲ. ばいじん  
ト. 混合廃棄物その他

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	シ、ゴムくず
--------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

有価物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量

t

自ら直接再生利用する量

t

自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量

t

自ら中間処理する量

t

④ うち熱回収を行う量

t

自ら中間処理により減量する量

t

自らの他事業場での処理量

t

B 直接処理委託量

0.0 t

B-1 中間処理委託量

0.0 t

B-2 最終処分委託量

t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量

t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量

t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量

t

b 残さ物の委託処理

自ら中間処理後の処理委託量

0.0 t

b-1 中間処理委託量

0.0 t

b-2 最終処分委託量

t

b-3 直接及び自ら中間処理後の処理委託量

0.0 t

(目的別内訳)

再生利用前委託量

t

最終処分前委託量

t

下水等放流前委託量

t

⑩ のうち再生利用業者への処理委託量

0.0 t

⑪ のうち認定熱回収業者への処理委託量

t

⑫ のうち優良認定処理業者への処理委託量

t

⑬ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

t

注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら直接処理する量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類】(ア~ト)	
ア. 電気機器	ソ. 鉛酸
イ. 汚泥	ケ. 繊維くず
ウ. 废油	コ. 動植物性残さ
エ. 废液	サ. 動物系固形不物
オ. 废アルカリ	シ. コムくず
カ. 废フッ素チク類	ス. 金属くず
チ. 紙くず	セ. カラバ・コンクリート・陶磁器くず

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類 及・金属くず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

有価物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量  
0.0 t※1 自社の他事業場からの搬入量  
t自ら直接再生利用する量  
t③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量  
t④ 自ら中間処理する量  
t⑤ (4)のうち熱回収を行う量  
t※2 自社の他事業場での処理量  
tB 直接処理委託量  
0.0 tB-1 中間処理委託量  
0.0 tB-2 最終処分委託量  
t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

a 残さ物の自己処理  
⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量  
t⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量  
t※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量  
tb 残さ物の委託処理  
自ら中間処理後の処理委託量  
0.0 tb-1 中間処理委託量  
0.0 tb-2 最終処分委託量  
t(目的別内訳)  
再生利用前委託量  
最終処分前委託量  
下水等放流前委託量  
t⑩ のうち再生利用業者への処理委託量  
0.0 t⑪ のうち認定熱回収業者への処理委託量  
t⑫ のうち優良認定処理業者への処理委託量  
t⑬ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量  
t

注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごとに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら直接処理する量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類】(ア~ト)	
ア. 損耗品	ソ. 鉛
イ. 汚泥	タ. 廃棄物
ウ. 废油	チ. 動植物のふん尿
エ. 废酸	ク. 動植物性残さ
オ. 废アルカリ	リ. 動物系固形不物
カ. 廃ガラスチック類	シ. コムくず
セ. 紙くず	ス. 金属くず
	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

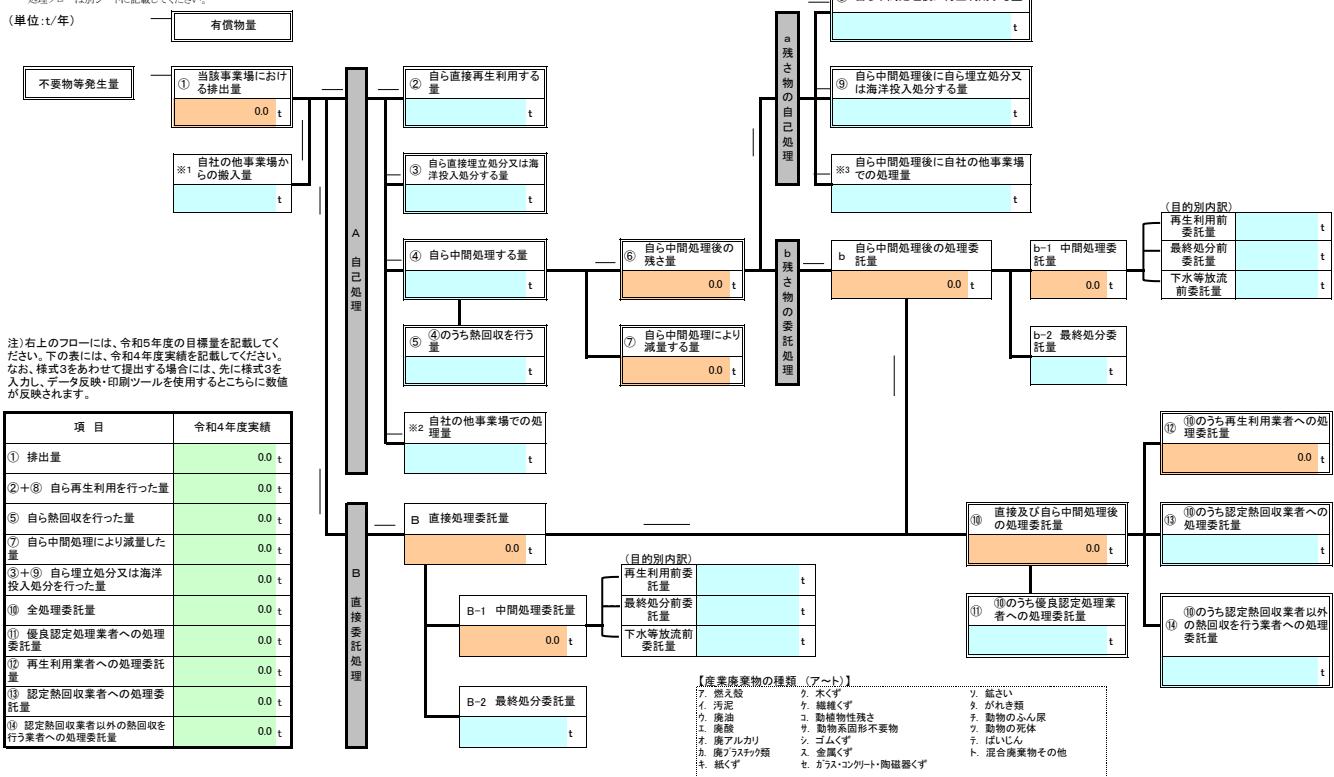
## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類 七、ガラス・コンクリート・陶磁器くず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	ゾ. 鉛さい
--------	--------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

有価物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

30,817.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量

t

自ら直接再生利用する量

26,794.0 t

自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量

t

自ら中間処理する量

t

④ うち熱回収を行う量

t

自ら中間処理により減量する量

t

自らの他事業場での処理量

t

自ら直接委託する量

4,023.0 t

B-1 中間処理委託量

4,023.0 t

B-2 最終処分委託量

t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量

t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量

t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量

t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量

0.0 t

b-1 中間処理委託量

0.0 t

b-2 最終処分委託量

t

⑩ うち再生利用業者への処理委託量

4,023.0 t

⑪ うち認定熱回収業者への処理委託量

t

⑫ うち優良認定処理業者への処理委託量

t

⑬ うち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量

t

(注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をおわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	26,892.0 t
②+⑧. 自ら再生利用を行った量	22,721.0 t
⑤. 自ら直接処理する量	0.0 t
⑦. 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨. 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩. 全処理委託量	4,171.0 t
⑪. 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫. 再生利用業者への処理委託量	4,171.0 t
⑬. 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭. 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類】(ア~ト)	
ア. 鉛	ゾ. 鉛さい
イ. 汚泥	ケ. 磁性くず
ウ. 废油	コ. 植物性残さ
エ. 废酸	サ. 動物系固体不物
オ. 废アルカリ	シ. コムくず
カ. 废フッ素物質類	ス. 金属くず
チ. 紙くず	セ. カラバ・コンクリート・陶磁器くず

産業廃棄物処理計画書

2-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

別紙処理フロー

#### 令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類 タ・がれき類  
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の場合は複数枚提出して下さい。

處理フロー  
(単位:t/年)

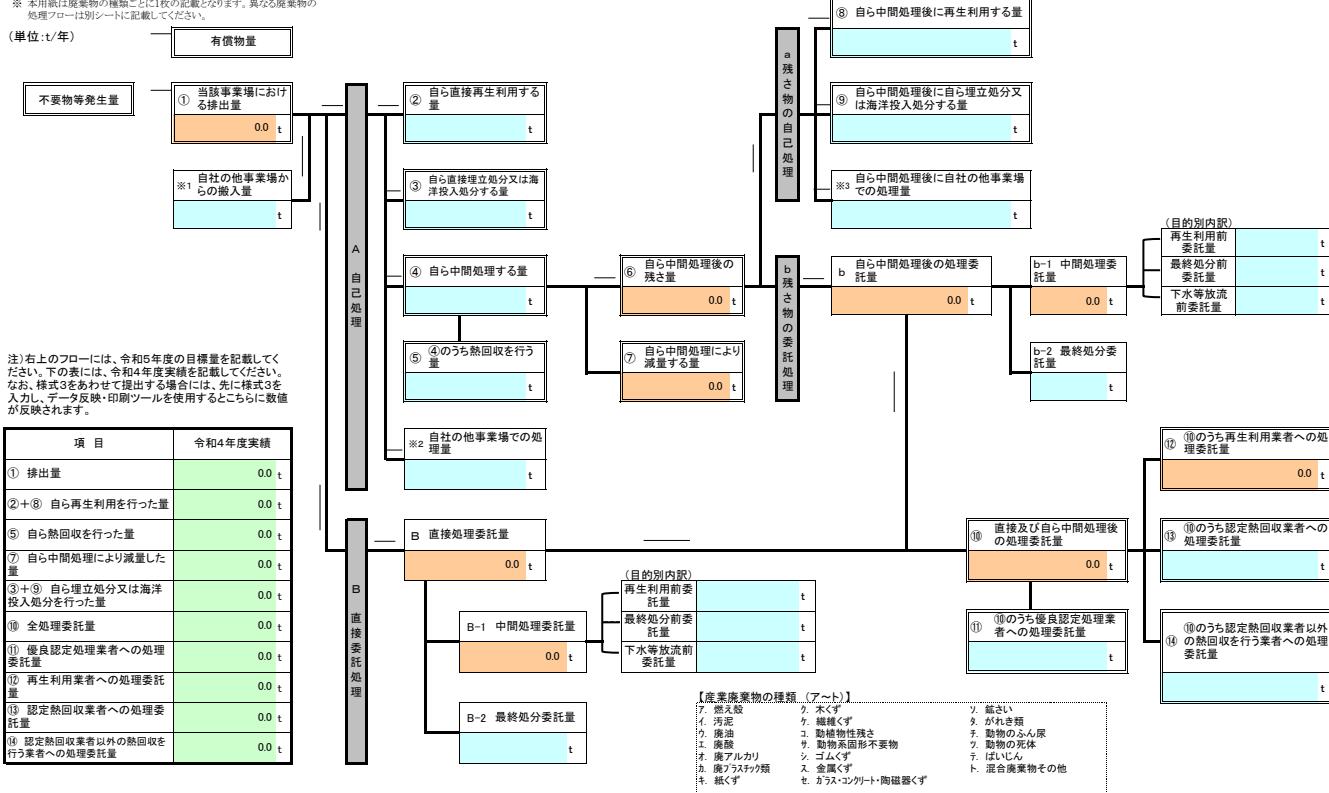
本章小结

有價物量

[View Details](#) [Edit](#) [Delete](#)

1

#### 当該事業場における



## 産業廃棄物処理計画書

2-2 法定 ○ 自主

## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	チ、動物のふん尿
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位:t/年)

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量

0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量

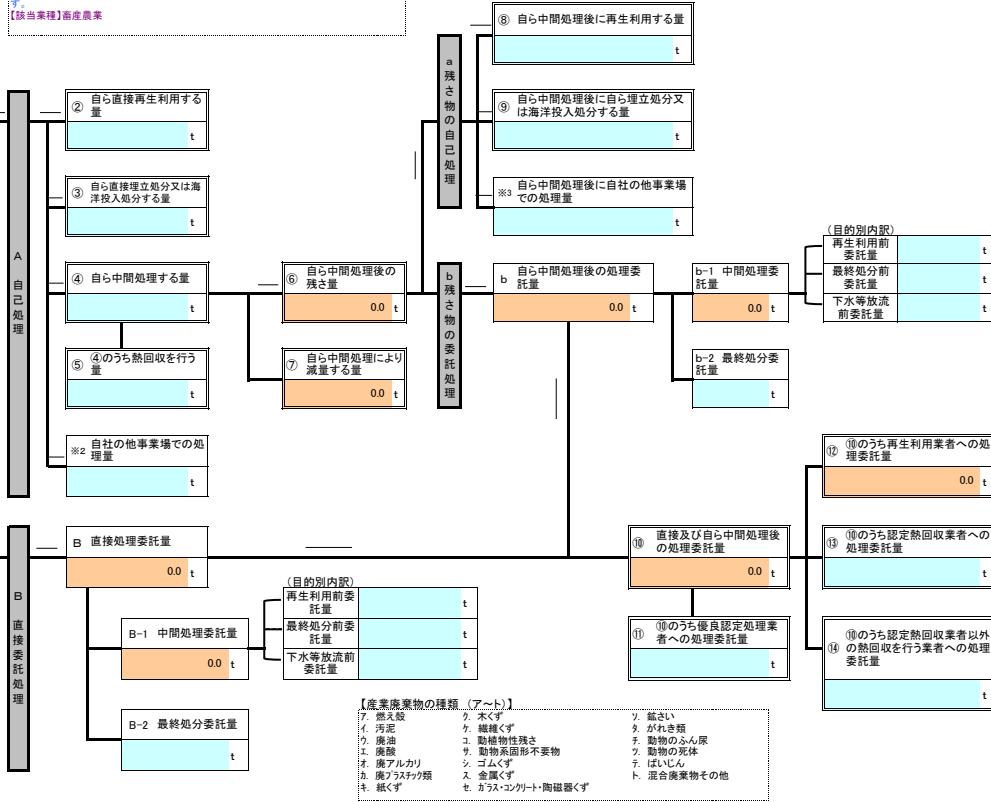
t

「動物のふん尿」には未種指定があり、該当未種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。  
【該当未種】畜産農業

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和4年度実績
① 排出量	0.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら中間処理する量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t



【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】

ア. 漏え液	ク. 廃油	ソ. 鉛さい
イ. 汚泥	ケ. 廃機器くず	タ. ガれき類
ウ. 废油	コ. 動植物性残さ	チ. 動物のふん尿
エ. 废酸	サ. 動物系固形不物	ク. 動物の死体
オ. 废アルカリ	シ. コムくず	リ. ばいじん
カ. 废フッ素チオ類	ス. 金属くず	ト. 混合廃棄物その他
セ. 紙くず	セ. ポリ・コンクリート・陶磁器くず	



## 産業廃棄物処理計画書

別紙処理フロー

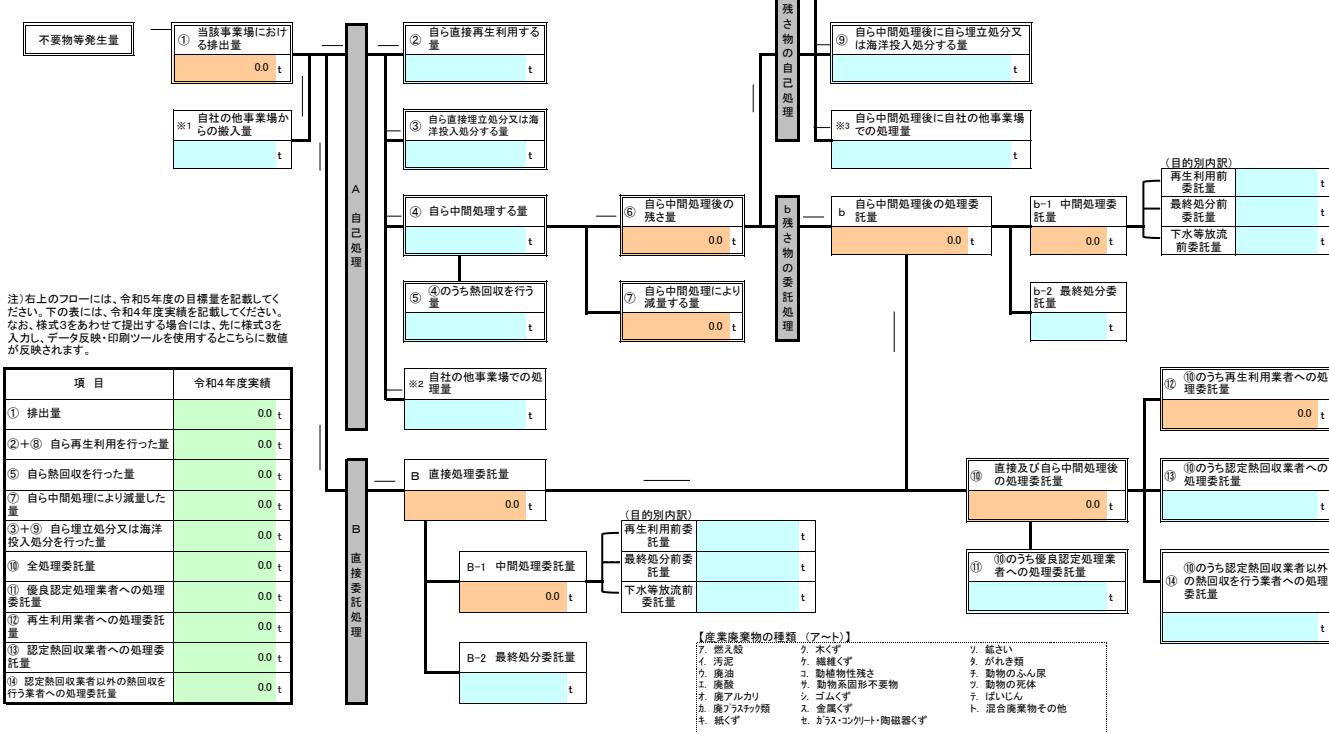
## 令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

**フローに記載した産業廃棄物の種類** テ・ぱいじん  
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別途「別紙」と記載して下さい。

处理量

(单位:t/年)

有價物量



## 別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

廃棄物の種類	ト. 混合廃棄物その他
--------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)

有価物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量  
0.0 t※1 自社の他事業場からの搬入量  
t自ら直接再生利用する量  
t③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量  
t④ 自ら中間処理する量  
t⑤ (4)のうち熱回収を行う量  
t※2 自社の他事業場での処理量  
tB 直接処理委託量  
0.0 tB-1 中間処理委託量  
0.0 tB-2 最終処分委託量  
t

事業場名称 : 福島製鋼株式会社 相模工場

a 残さ物の自己処理  
⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量  
t  
⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量  
t  
※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量  
tb 残さ物の委託処理  
b 自ら中間処理後の処理委託量  
0.0 t  
b-1 中間処理委託量  
0.0 t  
b-2 最終処分委託量  
t  
(目的別内訳)  
再生利用前委託量  
最終処分前委託量  
下水等放流前委託量  
t⑩ のうち再生利用業者への処理委託量  
0.0 t⑪ のうち認定熱回収業者への処理委託量  
t⑫ のうち優良認定処理業者への処理委託量  
t⑬ のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量  
t

【産業廃棄物の種類】(ア~ト)  
 ア. 電気機器  
 ブ. 塗料  
 ク. 繊維くず  
 イ. 汚泥  
 ケ. 動植物性残さ  
 ウ. 废油  
 シ. 動物系固形不燃物  
 エ. 废酸  
 ウ. 動物の死体  
 オ. 废アルカリ  
 シ. コムくず  
 カ. 废プラスチック類  
 エ. 金属くず  
 タ. がれき類  
 チ. 動物のふん尿  
 リ. 動物の死体  
 ド. ばいじん  
 ハ. 混合廃棄物その他  
 ヲ. 紙くず  
 ヲ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

産業廃棄物処理計画書

2-1 法定 自主

(単位:トン)

(単位:トン)

金 31